

浦尾社長のコラム

2016.01.04. 年頭挨拶概要

皆さん、明けまして おめでとうございます。

昨年は、あわやという事故が続きましたが、  
何とか最悪の結果だけは免れました。  
ただ、それを他人事として捉えた人たちが多く、大変残念でした。  
いつもお話ししているように、  
皆さんは、「自分の生活や、家族を守るために」働いています。くれぐれも、  
自分の意識の持ち方だけで「本末転倒」になることは、避けましょう。

昨年末の、城東運輸の安全運転講習会で話したことですが、  
運転中の違反やトラブルを見ていると、  
トラックの運転中は「業務中」って云うことが、  
意識の中に入っていないのでは！？ と、疑ってしまいます。

当たり前のことを聞きますが、「皆さんは、プロのドライバーさんですよね？」  
「プロ」って、端的に言えば、「お金をもらってやっている」ってことですよね。  
であれば、皆さんの「運転」に対しても報酬が支払われているわけです。  
会社も、お客様から「預かったお荷物を、安全に運ぶ」約束で、  
お金をもらっているのです。

講習をして頂いた警察の方も、事故の報告書を書くときに、  
タクシーやトラックの事故では、「職業運転手でありながら・・・」って、  
前書きが付くと言っておられました。  
「キャビンに乗ったら、自由な時間」ってわけではありませんので、  
忘れないでくださいね。

ついでに、昨年の運転中のスマホ・シートベルトの違反者に対するの  
処分について、私の考えを言及しておきます。  
10年前の、「異常事態宣言」を出した時の例えを再度。

コンビニの食品を作っている工場で、何回言っても  
「他人が見ていない処では、手を洗わずに作業をする人。」がいます。

食中毒の可能性は相当低いですが、いざ食中毒を出しました。  
… 会社側は実態を知っていて、こういうことを放置していました。  
今時、この工場は、どうなります？

ゼネコンさんの現場で、ヘルメットかぶっていない人は、見ないでしょう。  
小さな建設会社の現場では、タオルをまいただけの人たちを見かけますが。  
頭に物が落ちてきて大けがをするのは、  
交通事故の確率よりは相当低いと思います。

食品会社であれば、会社側は、そこに配置しておくのは不適切と判断し、  
直接食品を扱わない部署などへ「配置転換」を行います。  
ゼネコンさんは下請け業者に、その人を出入り禁止にしてもらいます。  
… 放置しとけば、取引停止は必至でしょう！？

当社も同じような、対処をしたつもりです。基準は、「最大最適」です。  
会社には、できるだけ多くの社員を守る使命があります。

また、浦尾の頭の中では、会社の中で、きちっとした挨拶のできない人が、  
お客さんの前ではきちっとしていますとか、手は洗わないけど、帽子もマスク  
もきちっとしています。長靴も消毒していますって云うのは、考えられません。

もう一点、これからの10年間で劇的に変わる交通事情について。  
今も、高齢者の事故が頻繁に発生していますが、  
これから更に加速度を増して頻発します。

若年層の乱暴な運転などは意識が有っての事なので、まだ、ある程度の予測が  
立ちますが、これからの高齢者の運転は、全く予測の立たないメチャクチャな  
運転が目立ってきます。  
もみじマークには、これまで以上の注意をしてくださいね。



また、コンビニの駐車場などでバックする時など、若い人達なら「危ない」  
って気が付いて避けてくれていたけど、高齢者の中には「目が悪く、耳も遠く  
なって、動作も不自由」な方が多いはずです。  
今までは物損事故で済んでいたことが、ほんの少しの接触で「倒れて、頭を強く  
打って、…。」と云う確率が相当高くなってきます。くれぐれも！！

さて、会社の業況ですが、27年度

総売上は、 35億6,500万円  
営業利益は、 7,300万円 (その前4年間 連続赤字でした)  
経常利益が、 1億 ,800万円

と、経常利益は過去最高で、1億円の大台に乗りました。  
随分大きな利益に見えますが、利益率で見れば 3.0%と、  
ようやく運送業以外の、一般の会社にたどり着いた処です。  
税引き後の最終利益は、過去2年分を穴埋めして 3,800万円が残りました。  
ざっくり、この3年間で大型車3台が残った勘定です。

皆さんへの労務費は、15億5千万円と自社売上のほぼ半分を費やしています。  
数字の上では、満点に近い結果が残せました。  
本当に、ありがとうございました。

28年度の方角性ですが、  
長い先のことを考えて、好調の今だから出来ることに着手しています。

まず一番は、「時短」の問題ですね。  
「時短」がクリアできれば、当社の足かせがほぼ無くなります。  
各部署で積極的に進めてもらっていますが、遅れて対応が出来なければ、  
後戻りしないように、その部署の廃止も視野に入れております。

いつまでも、「行政からナイフを、のど元に突き付けられたまま」では、  
未来を考えられません。(↑悪いのは、行政じゃなくて、当社ですよ)  
会社が感じている、危機意識は相当大きいものと思ってください。

通常、色々な物事を、全体に出来るだけ早く・多く落とし込むには、  
山の上の規模の大きなところから手を付けていきます。  
上からの順番で考えれば、当社はすでにクリアして、  
ターゲットから抜け出していないといけないポジションです。  
運送業界全体が変われるか、試されているつもりで早急に対応していきます。

会社の規模は、もう少し筋肉質になるまで、現状を維持していきます。  
昨期末に少なくなった、ドライバーさんの補てんも急がず、堅実に進めます。  
M&Aの話もいくつか来ていますが、積極的には関与しません。

「輸送品質」を、運送業者選定の中心に置くお客様から、  
一番最初に頭に浮かべてもらえる、運送会社に仕上げます。  
皆さんは、今までと変わらずに取り組んでもらえれば、結構です。

管理職の会合では、一度話をしていますが、  
浦尾は今年で60歳になります。  
今期10月が終われば、再度、社長職は退任したいと思います。  
後任の第一候補は川上常務ですが、他に適任者が見つければ呼んでできます。  
その後の5年間で、また、次の社長を見つけたいと思っています。

新年早々、きつい話も多かったですが、  
皆さんと皆さんの家族を、「安全安心」の道へ導いて行くバランスにかけては、  
他所の運送会社には、絶対に負けないと自負しています。

また、新たな1年、引き続きのご協力をお願いします。  
ありがとうございました。

### 浦尾社長 年頭挨拶

